



二所ノ関



前相撲	序ノ口		序二段					三段目						幕下	十両	幕内	
	東13	東9	東89	西86	東83	西68	東筆頭	東70	東68	東66	東50	西40	東29	西5	東24	東3	西大関
西勢郷	総勢山	山田	澁谷	阿見大心	足立	古田	羅漢児	林龍	谷口	今村	貴正道	麒麟龍	藤宗	麟虎	花の海	白熊	大の里
全休	5 2	2 5	4 3	4 3	4 3	6 1	4 3	5 2	3 4	4 3	3 4	4 3	2 5	4 3	3 4	7 8	9 6

十一月場所結果

前相撲	序ノ口	序二段						三段目						幕下		十両	幕内
	西 9	西 65	東 63	西 61	東 59	東 8	東 3	東 72	西 67	西 55	東 46	東 38	東 25	西 55	東 30	東 4	西 大関
西勢郷	山田	澁谷	総勢山	阿見大心	足立	古田	谷口	羅漢児	貴正道	藤宗	今村	林龍	麒麟龍	麟虎	花の海	白熊	大の里

一月場所新番付

大の里 苦戦の新大関デビュー

史上最速で大関昇進となり話題を集めた大の里。このまま一気に綱取りも、と期待は高まった。しかし長い長い秋巡業の中で体調を崩してしまう。九州に乗り込んでから必死の調整でどうにか初日に間に合わせたが、やはり後半にスタミナ切れが出てしまった。9勝の成績は、師匠二所ノ関から命じられた「大関の勝ち越しは10勝以上」に1つ届かない成績。しかしこれも良い勉強と本人は前向きにとらえ、冬巡業に出発。大の里に刺激されたであろう、先輩大関の綱取りに、次は大の里が待たかける番である。

白熊、休場明けの場所は悔しい結果に

新入幕の場所で怪我をして休場、11月は十両に陥落した白熊。7勝で終わり勝ち越しはならず。足首は完治に程遠い状態ではあったが、悔しい結果となった。しかし今までは身体のメンテナンスなどは無縁だった白熊が毎日マメにメンテナンスに通うなど新しい勉強もできた場所になったはず。冬巡業には参加し稽古に励んでいる。体調が戻り、稽古を積みれば元々は実力者。新年は身体と向き合って飛躍の年にしてもらいたい。

二所ノ関親方の総評コーナー！

11月は大の里と白熊が振るわない場所となりましたが、若い衆が頑張ってくれました。目立った力士では双子の兄弟。麟虎久々の幕下に復帰。地道に地道に力を付けてきました。まだまだ幕下では体力差があるので、馬力を磨いてスピードで勝つことを意識してほしい。林龍は前に出る力が付きました。今までバタバタする印象でしたが、手が先に出るようになり、自然と足が出るようになりました。自分に合った相撲が見つかってきました。今村、古田は勝負けよりも体作りが大事。倒れそうな相手を持ち上げて押し返す。それくらいの気持ちで押すことに徹底してほしいです。総勢山は強くなって復活してきました。負けた2人は元幕下の実力者。同程度の力士の中では抜きん出てきました。もっと早く勝負を決めることを意識すればドンドン勝てるようになります。若い衆に共通していることは馬力とパワーを磨くこと。幕下、十両、幕内それぞれの違いは馬力です。上のステージに上がるためには小細工を覚えるのではなく、馬力をつけなければなりません。それを意識して指導して参ります。今年は大の里が優勝2回、大関昇進。白熊も十両優勝に幕内昇進。色々なことがあり激動の一年でした。大変なことも多かったですが、みんなよく頑張ってくれました。2025年もワンランク上がるように、それぞれで目標を立てて、その為に何が自分でも考えて行動してほしいです。私も部屋を持って4回目の正月を迎えます。日々力士達のことを考えて一緒に成長していきたいと思います。2025年もどうぞよろしくお願いいたします。

今村、古田が入門から連続勝ち越しを継続

今村は初めて昇進した三段目で見事勝ち越し。入門から連続勝ち越しを4場所まで伸ばした。元々スピードのある相撲が魅力であり、高校相撲でも全国クラスで鳴らしていたが、入門から体重も増え突っ張りに重さが増している。序盤の相撲内容だと大勝ちも期待させたが、終盤は悪い癖が出てしまい惜しい限り。師匠の教えを守っていれば、このまま幕下も見えてくる。古田は序二段で6勝。優勝を目指して悔しいところだが、敗れた1番は200キロの巨漢力士を真っ向から土俵際まで押し込んだ。学生相撲では軽量級、入門時は大きな相手に相撲がならなかった事を考えると、進歩が見えた1番であった。2人に共通する課題は体重。いつも師匠監視の中、必死にご飯をかき込んでい。1月までにまた大きくなれば連続勝ち越し継続となるだろう。

双子力士の麟虎と林龍が大活躍

初土俵から3年に満たない、まだ18歳の双子力士が大活躍。弟の麟虎は三段目上位の九州で勝ち越し、5月以来となる幕下復帰を決めた。弟に少し先を走られていた兄の林龍も三段目で5勝。林龍は年間24勝で二所ノ関部屋の最多勝にも輝いた。どちらの力士も持ち味のスピードにパワーが備わってきており、安定した相撲が目立つ。史上初の双子関取目指して、来年は飛躍の年にしたい。



大怪我から復帰の総勢山、5勝で完全復活へ

相撲未経験で入門し、相撲を覚え始めた矢先に足首の大怪我に見舞われた総勢山。折れた骨を繋ぐ手術はもちろん、ボルトを抜く手術など長期の治療が必要となった。本来なら心折れて逃げ出したくなるほどの大怪我だったが、黙々とトレーニングルームで腕立て伏せしていた総勢山。ようやく全治療が終わり、9月から前相撲で復帰。序ノ口として番付に載って挑んだ11月では、一回りも二回りも強くなって見事に5勝。序ノ口の力士で普段は目立たなかった存在だが、胸を打つ復活劇を見せてくれた。少し遠回りしたが総勢山の相撲人生がようやく始まった。

